

## 0.1 H27 数学 A

[1] (1)  $|f(x) - f(y)| \leq |f(x) - f_n(x)| + |f_n(x) - f_n(y)| + |f_n(y) - f(y)|$  である. 任意の  $\varepsilon > 0$  に対して一様収束するから, ある  $N \in \mathbb{N}$  が存在して,  $n \geq N$  ならば,  $\forall x \in \mathbb{R}, |f_n(x) - f(x)| < \varepsilon$  である. この  $N$  に対して  $f_N$  は一様連続であるから, ある  $\delta > 0$  が存在して,  $|x - y| < \delta$  ならば  $|f_N(x) - f_N(y)| < \varepsilon$  である. よって,  $|x - y| < \delta$  ならば,  $|f(x) - f(y)| < 3\varepsilon$  である. すなわち,  $f$  は一様連続である.

(2) 一様収束するから任意の  $\varepsilon > 0$  について, ある  $N \in \mathbb{N}$  が存在して,  $n \geq N$  ならば,  $\forall x \in \mathbb{R}, f_n(x) - \varepsilon < f(x) < f_n(x) + \varepsilon$  である. 両辺の  $\sup$  をとって  $\sup A \leq \sup A_n + \varepsilon$  である. よって  $A$  は有界.  $|\sup A - \sup A_n| < \varepsilon$  より  $\limsup A_n = \sup A$

$$[2] (1) f_a(e_1) = a^t e_1 - e_1^t a = \begin{pmatrix} a_1 \\ a_2 \\ a_3 \end{pmatrix} \begin{pmatrix} 1 & 0 & 0 \end{pmatrix} - \begin{pmatrix} 1 \\ 0 \\ 0 \end{pmatrix} \begin{pmatrix} a_1 & a_2 & a_3 \end{pmatrix} = \begin{pmatrix} 0 & -a_2 & -a_3 \\ a_2 & 0 & 0 \\ a_3 & 0 & 0 \end{pmatrix} = -a_2 E_1 - a_3 E_2, f_a(e_2) = \begin{pmatrix} 0 & a_1 & 0 \\ -a_1 & 0 & -a_3 \\ 0 & a_3 & 0 \end{pmatrix} = a_1 E_1 - a_3 E_3, f_a(e_3) = \begin{pmatrix} 0 & 0 & a_1 \\ 0 & 0 & a_2 \\ -a_1 & -a_2 & 0 \end{pmatrix} = a_1 E_2 + a_2 E_3 \text{ である.}$$

$$\text{よって } T_a = \begin{pmatrix} -a_2 & a_1 & 0 \\ -a_3 & 0 & a_1 \\ 0 & -a_3 & a_2 \end{pmatrix} \text{ である.}$$

(2)  $\det T_a = -a_2(-a_1(-a_3)) + a_3 a_1 a_2 = 0$  より  $\text{rank } f_a \leq 2$  である.

$a \neq 0$  よりある  $i$  について  $a_i \neq 0$  である.  $T_a$  の部分小行列として  $\begin{pmatrix} a_1 & 0 \\ 0 & a_1 \end{pmatrix}, \begin{pmatrix} -a_2 & 0 \\ 0 & a_2 \end{pmatrix}, \begin{pmatrix} -a_3 & 0 \\ 0 & -a_3 \end{pmatrix}$  がとれる. これらの行列式は何れかが 0 でないから  $\text{rank } f_a \geq 2$  である. よって  $\text{rank } f_a = 2$  である. したがって  $\dim \text{Im } f_a = 2, \dim \text{Ker } f_a = 1$  である.

$$(3) T_a \text{ の固有多項式を } g_a \text{ とすると } g_a = \begin{vmatrix} -a_2 - \lambda & a_1 & 0 \\ -a_3 & -\lambda & a_1 \\ 0 & -a_3 & a_2 - \lambda \end{vmatrix} = -\lambda^3 + (a_2^2 - 2a_1 a_3)\lambda = -\lambda(\lambda^2 - (a_2^2 - 2a_1 a_3)) \text{ である.}$$

よって  $a_2^2 - 2a_1 a_3 \neq 0$  ならば  $T_a$  の固有値は全て異なるから, 対角化可能.  $a_2^2 - 2a_1 a_3 = 0$  ならば,  $T_a$  の固有値は 0 のみである. 固有値 0 の固有空間は  $\text{ker } T_a$  であるから  $a \neq 0$  なら固有空間の次元は 1 となり, 対角化不可能.  $a = 0$  ならば  $T_a = 0$  であるから対角化可能.

以上より  $a = 0 \vee a_2^2 - 2a_1 a_3 \neq 0$  が対角化可能性に関する必要十分条件である.

[3] (1)  $N_r(A)$  は開集合である. これを示す.  $x \in N_r(A)$  を任意にとる. ある  $a \in A$  が存在して  $b := r - d(x, a) > 0$  である.  $y \in B(x, b/2) := \{y \in X \mid d(x, y) < b/2\}$  について  $d(a, y) \leq d(a, x) + d(x, y) < r - b + b/2 < r$  である. よって  $B(x, b/2) \subset N_r(A)$  である. よって  $N_r(A)$  は開集合である.

$F_K = \{N_n(K) \mid n = 1, 2, \dots\}, F_L = \{N_n(L) \mid n = 1, 2, \dots\}$  とする.  $F_K, F_L$  は  $X$  の開被覆である. とくに  $K, L$  の開被覆である. よって  $L$  の被覆  $\{N_{n_1}(K), N_{n_2}(K), \dots, N_{n_m}(K)\}$  と,  $K$  の被覆  $\{N_{m_1}(L), N_{m_2}(L), \dots, N_{m_\ell}(L)\}$  がとれる.  $r = n_m + m_\ell$  とすれば,  $L \subset N_r(K), K \subset N_r(L)$  である.

(2) 任意の  $r > 0$  に対して  $K \subset N_r(K)$  である. よって  $D(K, K) = 0$  である. 逆に  $D(K, L) = 0$  とする. 任意の  $r > 0$  について  $K \subset N_r(L), L \subset N_r(K)$  である.  $x \in K$  に対して, ある  $y \in L$  が存在して  $d(x, y) < r$  である. この  $r$  は任意にとれるから  $x$  は  $L$  の触点である. 距離空間はハウスドルフ空間であり, ハウスドルフ空間のコンパクト集合は閉集合であるから,  $L$  は閉集合である. よって  $x \in L$  である. すなわち  $K \subset L$  である. 同様にして  $L \subset K$  である. よって  $K = L$  である.

定義から  $D(K, L) = D(L, K)$  である。

$K, L, M$  をコンパクト集合とする。  $D(K, L) = r_1, D(L, M) = r_2, r := r_1 + r_2$  とする。 任意の  $\varepsilon > 0$  を一つ固定する。  $x \in K$  に対して、  $y \in L$  が存在して  $d(x, y) < r_1 + \varepsilon$  である。  $y \in L$  に対して、  $z \in M$  が存在して  $d(y, z) < r_2 + \varepsilon$  である。 よって  $d(x, z) < r_1 + r_2 + 2\varepsilon$  である。 すなわち  $K \subset N_{r_1+r_2+2\varepsilon}(M)$  である。 逆も同様に  $M \subset N_{r_1+r_2+2\varepsilon}(K)$  である。 よって  $D(K, M) \leq r_1 + r_2 + 2\varepsilon$  である。  $\varepsilon$  は任意にとれるから  $D(K, M) \leq r_1 + r_2$  である。 よって  $D(K, M) \leq D(K, L) + D(L, M)$  である。

□ (1)  $1 + e^{2\pi z} = 0$  とする。  $z = x + iy$  ( $x, y \in \mathbb{R}$ ) とすると、  $e^{2\pi x} e^{2\pi iy} = -1$  である。 よって  $\sin 2\pi y = 0$  であるから、  $y = \frac{n}{2}$  ( $n \in \mathbb{Z}$ ) である。 よって  $e^{2\pi z} = e^{2\pi x} (-1)^n = -1$  より  $x = 0$  で  $n$  は奇数である。  $S_R$  内では  $z = i/2$  が唯一の解である。 すなわち  $f(z)$  は  $z = i/2$  を特異点にもつ。

$$\lim_{z \rightarrow \frac{i}{2}} (z - \frac{i}{2}) \frac{e^{2\pi az}}{1 + e^{2\pi z}} = \lim_{z \rightarrow \frac{i}{2}} \frac{e^{2\pi az} + (z - \frac{i}{2}) 2\pi z e^{2\pi az}}{2\pi e^{2\pi z}} = -\frac{e^{a\pi i}}{2\pi}$$

より  $\text{Res}\{f(z), i/2\} = -\frac{e^{a\pi i}}{2\pi}$  である。

したがって留数定理から  $\int_{\gamma_R} f(z) dz = 2\pi i (-\frac{e^{a\pi i}}{2\pi}) = -ie^{a\pi i}$  である。

$$(2) |\int_{J_R^+} f(z) dz| = |\int_0^1 \frac{e^{2\pi a(R+iy)}}{1+e^{2\pi(R+iy)}} idy| \leq \int_0^1 \frac{e^{2\pi aR}}{1+e^{2\pi(R+iy)}} |dy| \text{ である。}$$

$$\left| \frac{e^{2\pi aR}}{1+e^{2\pi(R+iy)}} \right| = \left| \frac{1}{e^{-2\pi aR} + e^{2\pi R(1-a)} e^{2\pi iy}} \right| \leq \frac{1}{e^{2\pi(1-a)R}}$$

であるから、  $|\int_{J_R^+} f(z) dz| \leq \int_0^1 \frac{1}{e^{2\pi(1-a)R}} dy = \frac{1}{e^{2\pi(1-a)R}}$  である。  $0 < 1-a < 1$  より  $|\int_{J_R^+} f(z) dz| \rightarrow 0$  ( $R \rightarrow \infty$ ) である。 同様に  $|\int_{J_R^-} f(z) dz| \rightarrow 0$  ( $R \rightarrow \infty$ ) である。

(3)  $\int_{-\infty}^{\infty} \frac{e^{2\pi ax}}{1+e^{2\pi x}} dx = \int_{-\infty}^{\infty} \frac{1}{e^{-2\pi ax} + e^{2\pi(1-a)x}} dx \leq \int_0^{\infty} \frac{1}{e^{2\pi(1-a)x}} dx + \int_{-\infty}^0 \frac{1}{e^{-2\pi ax}} dx < \infty$  である。 よって広義積分は収束する。  $R + i$  から  $-R + i$  への向きのついた線分を  $C$  とする。  $\int_C \frac{e^{2\pi az}}{1+e^{2\pi z}} dz = \int_R^{-R} \frac{e^{2\pi a(x+i)}}{1+e^{2\pi(x+i)}} dx = -e^{2\pi ai} \int_{-R}^R \frac{e^{2\pi ax}}{1+e^{2\pi x}} dx$  である。 よって  $\int_{\gamma_R} f(z) dz = (1 - e^{2\pi ai}) \int_{-R}^R f(z) dz + \int_{J_R^+} f(z) dz - \int_{J_R^-} f(z) dz$  である。 すなわち  $R \rightarrow \infty$  で  $-ie^{a\pi i} = (1 - e^{2\pi ai}) \int_{-\infty}^{\infty} f(z) dz$  である。 よって  $\int_{-\infty}^{\infty} f(z) dz = \frac{-ie^{a\pi i}}{1 - e^{2\pi ai}} = \frac{-i}{e^{-a\pi i} - e^{a\pi i}} = \frac{1}{2 \sin a\pi}$  である。